

誰かに教えたくなる 科学技術の話 59

常人には想像できない
「天才の行動」



東京大学名誉教授 月尾 嘉男

天才の意外な側面

筆者の恩師の一人で著名な機械工学の教授は公立大学の学長もされた大物であるが、生涯で一度しか飛行機に搭乗されなかった。飛行機が空中に浮上するのはベルヌーイの定理という理論で説明されるが、教授は間違いであるとして、巨大で重量のある飛行機が浮上するわけがないと主張され、若手の時代にアメリカでの学会に一度出席された以外には国内を鉄道や船舶で移動しておられた。

イギリスの学者・ニュートンは万有引力の法則や微分積分の理論を發明した偉大な学者で、その業績により大学から下院議員に推挙された。職務に忠実で欠席はしなかったが発言もしなかった。そのニュートンが挙手をしたので場内の議員が一斉に注目したが、発言は「議長、風が入るので窓を閉めてほしい」という一言であった。これが議会でニュートンが発言した唯一の言葉とされている。

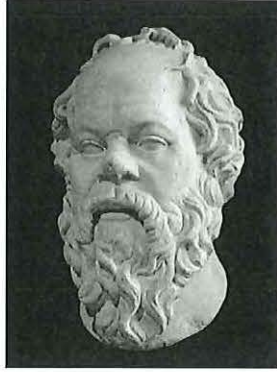
ニュートンに匹敵する天才A・アインシュタインも話題は豊富である。第三次世界大戦で使用される武器について質問され、それは不明だが第四次世界大戦で

は石斧と棍棒であると回答している。自分の理論が原子爆弾の基礎となったことを後悔し、広島や長崎を予見できたら相對性理論の公式は破棄していたという言葉も記録されている。今回は偉大な人物の意外な言動を紹介したい。

ソクラテス

古代ギリシャには多数の著名な学者が出現して西洋哲学の源流を形成してきたが、後世への影響が最大とされる人物がソクラテスで、釈迦、孔子、キリストとともに世界の思想体系を形成した四聖の一人とされている。自身では著作を執筆しなかったため、弟子のクセノポンとプラトンの著作に記載されている内容から行動や性格を推定すると相当の変人であった。

クセノポンが弟子になった経緯からして奇妙である。クセノポンが市内を歩行しているとき偶然出会ったソクラテスが突然質問してきた。次々と質問されたクセノポンは返答していたが、最後に「立派な人間になるためにはどうすればよいか」と質問され返答できなかった。そうしたらソクラテスが「自分の弟子として



ソクラテス (紀元前470-399)

勉強すればよい」というので弟子になったということである。

一方、謙虚な側面もあり、神々に神託する場所として有名なデルポイのアポロン神殿で、弟子の一人が「ソクラテス以上の賢者は存在するか」と質問したところ、巫女は「一人もない」と返答した。ソクラテスは謙虚に「最高の賢者は自分の知恵には価値がないことを自覚できる人間である」と理解し、以後、各地の賢者とされる人々に本当は無知であること

を理解させるために活動した。

日常生活も変人で、服装は季節に関係なく同一のマントを着用、どこでも裸足で生活した。ソクラテスは様々な人々に質問し、回答できない相手を無知と批判していたため、反感をもった人々の策謀により死刑を宣告されてしまう。弟子たちは逃亡させようとするが拒否し、毒杯により刑死した。七十歳であった。ソクラテスの伴侶は悪妻の見本とされるクサンティッペである。

イマヌエル・カント

イマヌエル・カントは十八世紀に活躍したドイツの大哲学者で、第二次世界大戦後にソビエトのカリーニングラードとなったケーニヒスベルクで馬具職人の子供として誕生した。当時の哲学は自然科学と一体で、初期には『天界の一般的自然史と理論』を刊行しているが、一七八一年に出版した『純粹理性批判』などにより、西洋哲学史上の重要な存在となっている。

一七四〇年にケーニヒスベルク大学に入学するが、父親の死去により大学を退学、家庭教師をして生計を維持しながら



I・カント (1724-1804)

勉強し、五五年に論文を提出して哲学修士となり、四十六歳になった七〇年から遅咲きでケーニヒスベルク大学の哲学教授に採用され、次第に哲学部長、評議員と学内で出世していく。授業は毎週十六時間も担当するという激務であったが、時計のように厳密な生活をしていた。

毎朝五時に起床、下男に命令して冬季でも一四℃に設定した部屋で紅茶を数杯飲用し、パイプでタバコを一服してから一定の時刻に毎日同一の服装で大学へ徒

歩で出発、午前七時から授業を開始して終了してから午後一時に昼食をして帰宅、天候に関係なく午後二時三〇分になると並木のある小道を四回往復した。住民はカントが通過する時間で自宅の時計を修正していたほど正確であった。

夕食は毎日友人と会食し、ビールが国民飲料のようなドイツでビールを嫌悪し一切飲用しなかった。知人の訃報が到来するとビールを毎日飲用したからだと説明していた。一八〇四年に当時としては長命の八十歳で死亡する。生涯独身であったため、周囲に葬儀は簡素にと指示していたが、人望があったため二週間にもなり、唯一、厳密に執行されなかった行事になった。

ハワード・ヒューズ

かつてロングビーチの港湾にある巨大な建物の内部に木製の飛行艇が展示されていた。一九四七年に完成し、当時の世界最大の航空機「スプルース・グース（H4ハーキュリーズ）」である（図1）。これを建造したのがハワード・ヒューズで、石油掘削道具の発明によって富豪となっていた父親がヒューズの十八歳のと

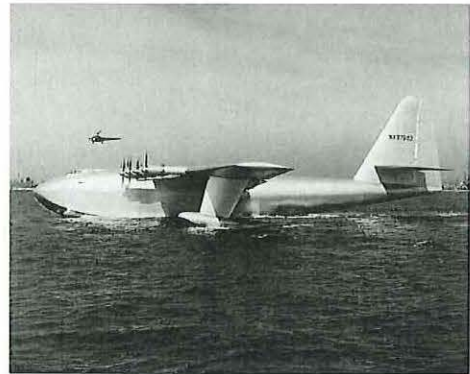


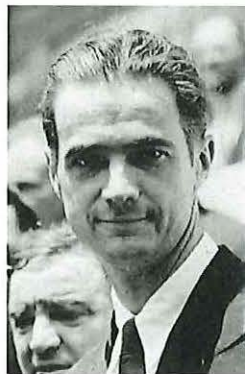
図1 スプルース・グース

きに死亡したため巨額の資産を継承し、一気に富豪となった。

ヒューズは資産を映画制作と航空分野に投入した。映画では『暴力団』が第一回アカデミー賞最優秀作品賞の候補になり、『地獄の天使』は世界最初に興行収入一〇〇万ドルを突破した作品となる。航空分野ではヒューズ・エアクラフトを創設、「スプルース・グース」などを製造している。本人も優秀なパイロットでアメリカ大陸横断最短記録や九十一時間

という世界一周記録を達成している。

政治にも関心があり、地元のカリフォルニア選出の上院議員R・ニクソンの選挙には巨額の献金をしていた。長身、美男、富豪という三拍子揃った男性であったため、三度の結婚をしているが、それ以外にE・ガードナー、K・ヘップバーン、J・ハリロウなどハリウッドの大物女優と関係があったことでも有名であった。しかし、一九四六年に墜落事故による負傷で人生が一変した。



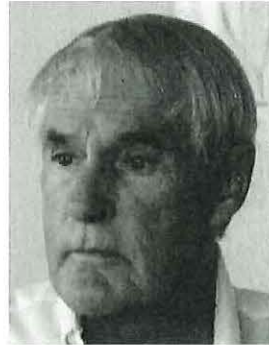
H・ヒューズ (1905-76)

止痛のため使用した麻薬の影響で精神衰弱となり、細菌への感染の異常な恐怖から次第に人間と出会わなくなり、一九六六年にはラスベガスの高級ホテルの広大な部屋から外出しなくなった。七六年にメキシコのアカプルコのホテルに移動したが昏睡状態となり、治療のためアメリカへ移動する自家用機内部で死亡した。遺書がなかったため膨大な遺産の処理には二十年間という時間を必要とした。

ティモシー・リアリー

ティモシー・リアリーという名前をご存知であれば、かなりの博識である。頭脳明晰であるが既存の体制に反抗する人生を選択してきた人物で、高等学校では人望があり生徒会長であったが学校を批判して大学への推薦を拒否され、陸軍士官学校に入学するが上官に反抗して退学させられ、アラバマ大学では女子寮に侵入して退学になるなど、反抗の歴史を貫徹してきた。

しかし一九五〇年代前半に発表した「人格の人間関係診断」という論文が評価され、類似の研究をしている学者が在籍するハーバード大学に教官として採用



T・リアリー (1920-96)

された。アステカ文明が使用していた幻覚作用のあるマジック・マッシュルームや当時は合法であったLSDの研究をしていたが、一九六三年にメキシコで研究していたリアリーにハーバード大学から唐突な解雇の通知が到来した。

しかし、ある金持ちがニューヨーク郊外にある別荘を提供してくれたため、そこで研究を継続するが、政府がLSDを麻薬と認定して違法使用を禁止するようになり、リアリーは体制から監視される

立場になり、微量のマリファナの所持で十年間投獄される。しかし過激な組織の手助けで脱走し、ヨーロッパを転々とするが逮捕され、アメリカに強制送還されて刑務所内で生活する。

しかし、麻薬に厳格であったニクソン政権がウォーターゲート事件で崩壊した結果、リアリーの判決も見直され、一九七六年に釈放された。以後はテレビジョン放送などに頻繁に出演して異端の学者から正統の識者に変化した。九六年に死亡したが、その遺灰のうち七グラムは口ケットで宇宙空間に放出され、大気圏内で焼滅するまでの六年間は地球の上空を周回していた。

ここに紹介した四人は人類の歴史において異常な能力を発揮した人物であることは相違ない。しかし、その能力が多数の人間が期待する方向に作用したかは疑問の場合もある。アインシュタインの言葉がそれを証明している。我々が先端の科学や技術を理解することは容易ではないが、それらが社会をどのように変化させるかを注視する努力をすることは地球に生活する人間の責務である。